



岩国医療センターだより

2023年3・4月号 VOL.146

ご自由にお持ちください。



手術室入り口

だより

① **特集【麻酔科だより】**
麻酔科の紹介

③ 【看護部だより】9階東病棟の紹介

④ 【栄養管理室だより】
「新食生活」はじめませんか？

⑤ 【地域医療連携室だより】
脳卒中相談窓口を開設しました

⑥ 旅行記「山寺」
いづみ保育園クリスマス会

⑦ インフォメーション

独立行政法人国立病院機構
岩国医療センター
発行・制作：広報委員会

〒740-8510 山口県岩国市愛宕町1丁目1番1号
TEL 0827-34-1000 / FAX 0827-35-5600

岩国医療センター 検索 <https://iwakuni.hosp.go.jp>



特集

麻酔科の紹介

麻酔科医師 熊野 夏美
日本麻酔科学会 専門医



私が医師になったころ、卒業後すぐに希望科での研修を始めるのが標準的な道でした。どの科に進むか迷いもあり、「どの科に進むにしても麻酔科で研修をしておく、人間の全身を深く学べるからいい。医師として歩む基礎的なことが身につく。」という麻酔科医師のすすめもあり「とりあえず麻酔科」を選択しました。麻酔科での仕事の実際を知らない方にはこの理由が分からないのではないかと思います。医学生や医師、看護師のような医療関係者も知らないことも多いのではないのでしょうか。

そこで今回、麻酔科の紹介をさせていただこうと思います。

麻酔科の仕事

意識消失（不快でないのであれば意識はあってもよいのですが、消失前提のことが多いです）、不動（手術中に動くと危険です）の状態がかつ心臓などの全身の臓器機能が正常に保たれた状態を維持するのは特殊な状況です。人工呼吸は高頻度で必要となりますし、心臓の手術では心臓が止まった状態でないといけない手術も多いため、人工心肺を使います。自分の心臓の力だけでは全身の臓器を正常に維持することが困難な場合には心臓の力を補助する薬剤や補助的な機械も使います。そういう特殊状況から機械や薬剤が不要な状況へ移行するまでを専門的な知識、技術、経験を使って「麻酔」するのが日々の仕事です。通常は機械や薬剤が不要な状況への移行は問題なく行えるのですが、これが困難な場合は事前に十分に説明したうえで選択をしていただきます。

心機能低下、呼吸機能低下などがある場合に「麻酔しても問題ないか」という質問を受けることがありますが、麻酔そのものよりもその手術ができる（術後も含めて）だけの体力があれば、たいてい大丈夫です。術前の状態と手術の内容の組み合わせにより、術後の状態が術前同様とはいかなくなる場合があります。

麻酔とは

「麻酔」のイメージと言えば、魔女が手術時間・手術内容・患者さんの年齢などの緒因子をもとに薬の種類や量を配合して決め打ちしているというものではないのでしょうか。

患者さんに麻酔について説明させていただくときに「麻酔薬は目的に応じたお薬を濃度や投与量調節はしますが、基本的には流し続けますので、途中で醒めることはないです。」とお伝えすると意外そうな反応をされます。そして、よく聞かれる質問に「終わっても醒めないことはないですか。」というものがありますが、それに対しては「個人差はありますが、必ず麻酔薬は体から出て醒めます。ただし、麻酔中に脳梗塞など意識が悪くなるような病気になった場合は別です。しかし、それを確実に麻酔中に診断して治療する方法はありません。」とお伝えします。ただし、心電図チェックや血圧測定を頻回に行い、異常がない状態であればたいていあたかも手術前であるかのような目覚めであることが多いとお伝えすると安心していただいています。

そういった安全である状態とより快適な術後を達成するために地味ですが、進歩し続けています。同じ手術を受けるなら、この病院が良かったと言ってもらえるようそうした進歩を勉強し、麻酔という診療に生かしています。



麻酔と吐き気

麻酔といえば、「吐き気が気になる」という方が多いのではないのでしょうか。

当院では術後の嘔気嘔吐おうきおうとに関する研究も行い、学会発表し、論文掲載(注)もされました。

吐き気に関しては海外では術後にも使われていたオランダンセトロンとグラニセトロンが2021年に日本でも術後の消化器症状(悪心、嘔吐)に対して、効能・効果が追加されました。術後に吐き気はなかったという方も多くなっていますが、治療ではなく予防ということを意識するようになってきていることもその要因です。



おわりに

手術という治療を選択された方が安全かつその治療の最大の効果を得られるような場を提供し、安心して周術期を過ごしていただけるためのスペシャリストが麻酔科医だと自負しています。そして、今後とも手術を必要とする方に多くの場を提供できるように努めていきます。

注…「論文」

久保 飛鳥, 熊野 夏美, 柳田 大輔, 廣井 一正, 上原 健司: オピオイドフリーの術後管理が胸部外科手術後の悪心・嘔吐の発生に与える影響傾向スコアマッチングを用いた後ろ向きコホート研究. 麻酔 70:1303-1309, 2021

当院でも化学療法の悪心、嘔吐に対して院内採用し使用していたグラニセトロンを麻酔中に予防的に投与するようになりました。



バードウォッチング

「くちばしの形状イロイロ(水辺の鳥)」

記：外来予約センター
浜田千代子



蓮田に立ち寄る鳥たちは、その食性から様々な形状の嘴(くちばし)をしています。長い嘴は水中や地中、あるいは岩場に突っ込んだり、探ったりして採餌するのに適しているようです。



ソリハシシギ



チュウシャクシギ



ソリハシセイタカシギ



コウノトリ



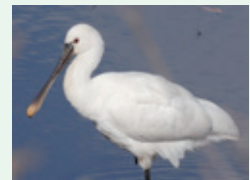
オオソリハシシギ



ホウロクシギ



オオハシシギ



ヘラサギ

今月の表紙：手術室入り口



当院では、手術をされる患者さんが手術室に入る前、前室(手術室入り口)というところで担当医・麻酔医・手術室看護師により患者さんの確認をしています。





9階東病棟の紹介

9階東病棟
看護師長 上原 明美



9階東病棟は、主に耳鼻咽喉科、呼吸器内科、婦人科、眼科を担当する混合病棟です。

様々な疾患の患者さんが入院されるため、病棟では、患者さんの疾患に合わせた看護を提供するために勉強会を開催し、専門的知識を深め日々の看護実践を行っています。



当病棟には、がんの患者さんが多く入院されます。抗がん剤治療を受けられる患者さんの入院中の管理は、院内のがん化学療法に関する教育を修了し認定試験に合格した看護師が行っています。今年も3名の看護師が院内の化学療法認定看護師の試験に合格し、現在、13名の看護師が院内化学療法認定看護師の認定を受けています。

放射線療法を受けられる患者さんには、治療による副作用を軽減させるために、放射線治療開始前から保湿剤を使用し放射線皮膚炎の発症を遅らせる工夫を行っています。

治療による口腔粘膜のダメージによる食欲不振がある患者さんに対しては、患者さんの嗜好をお聞きし患者さんが食べやすい食事内容を栄養士と一緒に検討しています。

これからもがん治療を受けられる患者さんの苦痛が少しでも緩和できるよう、患者さん一人ひとりに応じた看護を実践していきたいと思えます。

また、病棟では、患者さん、ご家族の思いを大切にしたい看護が実践できるよう取り組んでいます。

昨年、予後不良のがん患者さん・ご家族が主治医から緩和医療について説明を受けたあと、患者さんが「家に

帰りたい」と希望されました。ご家族の意向を確認すると、ご家族も「家につれて帰りたい」と言われ患者さんと思いが同じでした。私たち看護師は、患者さん・ご家族の思いを大事にしたいと考え、主治医・がん専門看護師・医療ソーシャルワーカー・薬剤師、訪問看護師と連携し退院に向けた準備を早急に整えました。患者さんは退院3日後に旅立たれましたが、ご家族より、患者さんはご自宅に帰られご家族と食卓を囲み、笑顔でお話をされかけがえのない時間をご家族と過ごすことができました。と伺いました。

短期間ではありましたが患者さんご家族の思いを尊重した看護を提供することができ、看護師としてもやりがいに繋がりました。



これからも患者さん・ご家族の思いを尊重し、気持ちに寄り添い、丁寧に関わっていききたいと思います。





春のお弁当



「新食生活」はじめませんか



栄養管理室 主任栄養士
石本 潔那



管理栄養士
小池 真央

冬の厳しい寒さが少しずつ和らぎ、スーパーマーケットでは春の食材が並び始めていますね。春になると新生活の影響で、食生活も変化する方がいらっしゃるのではないのでしょうか？ 仕事の都合で食事時間が変化したり、学校や職場にお弁当の持参が必要になったり、一人暮らしが始まり、自炊が必要になったり…食事って生活の中心にあるはずなのに、変化への準備が後回しになりがちな気がします。

栄養管理室では患者さんに対して入院・外来を問わず栄養指導を行っています。令和4年度は、心臓病や糖尿病など、生活習慣病の指導が特に多かったです。これらの食事療法は共通して「主食(ご飯など)・主菜(肉・魚など)・副菜(野菜など)のそろったバランスのよい食事」「塩分を控えた食事(減塩)」この二つが基礎として大切です。病気でない方も、この二つを意識した食事を実践することで発症

リスクの軽減につながると言われています。

「今まで意識できていなかったな～」と感じたら、この二つを意識した「新食生活」をこの春からはじめてみませんか？

今回は、食事バランスと減塩を意識した春のお弁当例をご紹介します。昼食のお弁当が手作りの方や、コンビニ等のお弁当を活用している方もいらっしゃると思います。近年カロリー表示がわかりやすい商品が増え、「カロリー控えめ」という表示で500kcal程度のお弁当もよく見かけます。でもよく中身をみるとご飯と唐揚げ、野菜は漬物の沢庵だけかな？というお弁当もあります。カロリー控えめなのに食べ応えはしっかり感じる…それは味が濃く、食塩が多い可能性があります。

是非、春のお弁当例を参考にして、食事バランスと減塩も意識してみてくださいね。

春のバランス減塩弁当

副菜

菜の花のごまくるみ和え (30kcal, 塩分 0.22g)

筍の土佐煮 (31kcal, 塩分 0.35g)

ごまやくるみの風味、鯉節の香りを生かすことで、薄味でも美味しく仕上がりに減塩に繋がります。



主食

桜エビご飯(米飯 150g分)
(257kcal, 塩分 0.01g)

優しい塩味と豊かな風味が特徴の桜エビを使用することで、上手に減塩することができます。梅干し(1個)は塩分約1gですが、桜エビ(1g)の場合、塩分は約0.01gに抑えられます。

主菜

鶏肉のマスタード焼、添え野菜(かぼちゃ、ミニトマト)
(158kcal, 塩分 0.7g)

当院でも定番メニューとして人気の料理です。マスタードなどの香辛料は味にメリハリをつけることができるため、薄味でも美味しく仕上がりに減塩に繋がります。

【材料】

鶏もも肉(皮無し)	(漬け込み調味料)	(ソース)
90g(約1/3枚)	醤油 0.4g	醤油 0.8g
調理油 3g	マスタード 2g	マスタード 5g

<作り方>

- ① 漬け込み調味料に鶏もも肉を漬け込む
- ② 調理油をひいたフライパンに①を調味料ごと入れ、中火で鶏肉に火が通るまで焼く
- ③ 鶏肉に火が通ったら弱火にし、フライパンにソースを流し入れ、鶏肉にソースをからめる



『脳卒中相談窓口』を開設しました

当院では、脳卒中の患者さんが安心して生活できるようサポートする「脳卒中相談窓口」を2022年12月に開設いたしました。

入院中・退院後の不安や悩みなどございましたら、お気軽にご相談ください。

地域医療連携室

相談内容の例

入院中・退院後の生活や介護について



リハビリについて



医療費や生活費が心配

家族や仕事のことで悩んでいる、などなど...



※相談は無料です。

脳卒中で入院した方・ご家族にお伝えしたいこと

第1部「脳卒中の治療が始まりました」
～急性期病院入院時にお伝えしたいこと～
…脳卒中の怖さ・予防について解説 など



二次元コードを読み取って動画で脳卒中が学べます！



第2部「脳卒中の治療、次の段階です」
～急性期病院退院時にお伝えしたいこと～
…緊急で入院された病院や他の病院の役割について など



第4部「自宅での心得」
～退院してからも再発予防を～
…再発予防のために気を付けること など

第3部「自宅退院に向けて」
～退院時にお伝えしたいこと～
…退院後の役立つ情報、生活や職場復帰について など



第5部「続・自宅での心得」
～介護の準備をしよう～
…介護保険を利用する方法や相談窓口について など



動画は、厚生労働省 2021 年度「循環器病に関する普及啓発事業委託費」により制作制作・著作：一般社団法人日本脳卒中学会、公益社団法人日本脳卒中協会

【対象者】

脳卒中患者さん及びご家族
(当院入院中、または当院入院歴のある方)

【場所】

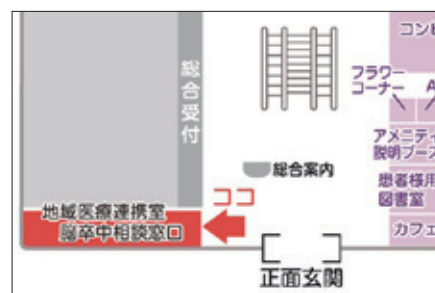
地域医療連携室 (総合受付1番の隣)

【時間 及び 問合せ】

月～金曜日 8:30～17:00
(祝日・年末年始を除く)



【場所】





やまでら ほうじゅさんりっしゃくじ

「山寺」～宝珠山立石寺～

臨床検査科長 安光 正治



断崖にせり出す五大堂
(山寺といえばここ)



山寺 登山口

…秋の空 許しておくれ 運動不足…オソマツ

古くは芭蕉の「閑さや岩にしみ入る蟬の声」、近くは茂吉が「みちのくの仏の山のごさごさし岩秀に立ちて汗ふきにけり」と詠んだ“宝珠山立石寺”通称「山寺」。長年行きたいと思っていましたが、昨年秋、久しぶりの学会現地参加のついでにやっと念願達成しました。位置エネルギーを上げるのが大の苦手な私ですが、一段一段踏みしめていくごとに1つずつ煩惱が消え悪縁を払うことができるそうですので、頑張るしかありません。

30分余、日頃の運動不足を痛感しながら上りきりました。五大堂からの眺めはすばらしく、疲れも吹っ飛びましたが、さて肝心の煩惱はどうなったのか。1015段では、なんとなく段数足りない気がしないでもありません、orz 奥の院の手前には郵便ポストがありますので、記念に絵はがきなど出されてもいいかも。



五大堂の中



それと忘れてはいけないのが

「力こんにゃく」とも言われる、山形名物玉こんにゃく。まいうーでした。宿に戻ったら今夜は芋煮にしようかな、それとも鳥中華かな、、、W



駅から見た五大堂



玉こんにゃく



五大堂より山寺駅方面を望む



山門「仁王門」

【長年、執筆や写真でお世話になりました安光先生が3月で退職されます。食べ歩きなどの楽しい記事を思い出します。ほんとうにありがとうございました。(広報)】

『いづみ保育園クリスマス会』

2022年12月22日(木)、岩国医療センターに隣接されている「いづみ保育園」にてクリスマス会が行われました。

サンタクロース&トナカイさんから園児にプレゼントが渡され、みんな嬉しそうでした。園児たちからは元気いっぱいの歌のプレゼントがあり、楽しい会もあっという間に終わりました。





新任医師・レジデントのご紹介 *New doctors*

令和4年12月に着任した医師を紹介します。(順不同)

①趣味・特技 ②自己PR・メッセージ



脳神経外科 医師
(にし かずひこ)
西 和彦

専門領域：脳神経外科一般

- ① 登山 ② 4年と半年ぶりに岩国に帰って参りました。岩国の医療に少しでも貢献できるように尽力していきたいと思っております。



麻酔科 医師
(にし きみか)
西 公香

専門領域：麻酔

- ① 登山 ② 手術に臨まれる患者さんたちの不安を少しでも取り除くことができるよう、丁寧な麻酔を心がけています。

『あいサポート☆障害者サポーター宣言』



特別講演

岩国医療センター附属 岩国看護学校

教員 原田 高志

令和4年12月22日、本校においてあいサポート研修も兼ねて橋本尚理先生による特別講演を実施しました。あいサポートとは、“山口県障害者福祉の活動として、様々な障害の特性や障害のある方の困っていることを理解し、誰もが暮らしやすい地域社会を一緒につくっていく運動”です。講演の中では様々な障害について知る機会となりました。

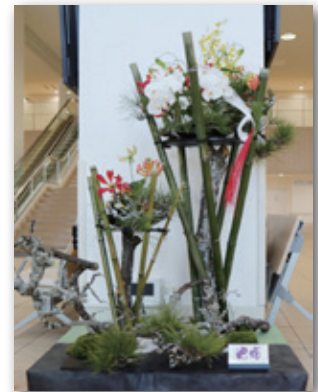
今回、私達学校関係者と学生全員があいサポートバッジを受け取りました。今後、障害者サポーターとして活動します。

わたしたちから障害者のかたに声をかけるだけでなく、障害者の方からも声をかけやすい社会になるように努めていきたいと思っております。



『正月の花』

1月の初め、当院正面玄関入って右の柱の前に、池坊さんにお正月の花を飾っていただきました。荘厳で美しい姿に身が引き締まる思いでした。



2022年度 第2回 市民公開講座「乳がんと前立腺がん」

令和5年1月14日(土)開催

『知って得する前立腺がんの基礎知識』

泌尿器科 医長 中田 哲也

近年、日本でも前立腺がんの罹患数が増加しています。また、日進月歩の医療技術進歩に伴い前立腺がんの診断と治療方法は細分化・専門化されるようになりました。反面、インターネットを中心に情報が氾濫したため、患者さんには現時点での適正治療やトレンドがわかりにくい状況になっています。今回の市民公開講座では、新しい治療方法などを中心に前立腺がんの基礎知識をまとめました。

当日は新型コロナウイルス感染症流行下ということもあり、参加定員を現地会場を先着100名とWEB配信のハイブリッド形式で行いました。多くの申し込みを頂き岩国市民の皆様の健康意識の高さを再認識いたしました。

今回の市民公開講座の中で、前立腺がんは検診の普及に伴い、早期から発見することができるようになったことを重ねてお話しいたしております。これをきっかけに今後とも皆様の健康長寿を心より願っております。

